

経 済 透 視 図

115

現状の自動運転技術した場合にはMRMはレベル(L)3の普及期にある。L3ではドライバー、安全にシステムの要請があれば、両を停止させる対応が必要になるため、ドライバーへの移行が行われなければならない。ドライバーをモニタリングする技術が重要になる。自動運転からドライバーに交代する際、検知やセンサーによる眠気があるか、疲労は心拍数、脈拍など得る程度かなどを適切に把握してドライバー分析が挙げられる。必

自動運転市場の動向

①

ドライバーへ働きかけ、カンダリアクティビティの検証も論点になる。また、今後は自動運転と想定される。ハンド

程度、注意を払うので、可能性があり、許可にあれば自動運転のメトリックは小さいため自動運転中は他のアクティビティを抑制したい。具体的にはスマートフォン、スマートフォンの操作、食事、運動、ユリテック技術が極めて重要とされる。ソフ

安全性確保、議論尽きず

る。ゲームや睡眠も考慮されるが、リアルタイム性の高いゲームは、情報奪取など多岐にわたるリスクが存在する。これらのリスクの軽減のためにシステムに適切に判断できない監視体制の構築、外部



窪田 正吾

SMBBC日興証券
プライベート・
コンピュータ・
ソリューション室長

無断転載・複写禁止